

「訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修」ラストは大阪で開催！

本会では本年度、福祉医療機構・平成 23 年度社会福祉振興助成事業の助成を受け、「訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修」を行っている。神奈川、千葉、静岡、鹿児島会場はすでに終了。ラストは 1 月 24 日（火）大阪会場だ。協力団体は、公益社団法人関西シルバーサービス協会。訪問介護員 16 名、福祉用具専門相談員 34 名が参加した。

研修を通して事故防止へ



酒井 博人 氏

「訪問介護員という一番現場にいる機会のある方に、福祉用具利用にあたっての注意箇所を知っていただき、ご利用者が本当に安全に生活できるような研修会をしたい」。本会理事であり、関西シルバーサービス協会の

副理事長でもある酒井博人氏は語る。近年、ベッド柵に首や腕を挟みこむ事故や、電動車いすの転倒事故等、福祉用具の重大事故が注目されている。その要因の多くは、福祉用具そのものではなく、誤った使い方によるものである。「現場にいる人が誤使用に早く気づいてちょっと注意することで、事故は回避できます。今日の研修を通して、できるだけ事故を少なくしていきましょう。」（酒井氏）

講義：適切なモニタリングの実施と 職種間の連携による事故予防

講義の講師を務めたのは、本会の山本一志事務局長。「福祉用具事業者も個別のサービス計画の作成が義務化されます。計画を介して、訪問介護員と福祉用具専門相談員が連携をとりやすい環境になってきたのではないのでしょうか」と、新たなサービス提供環境に対する期待を述べた。これまで訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携がうまく取れていなかったのは事実である。連携の仕組みづくりのきっかけになればと企画したのがこの研修会だ。

「現場に一番近い訪問介護員と、福祉用具専門相談員が意思の疎通を図り、同じ認識に立って福祉用具を利用す



山本 一志 氏

る。そういう環境を作ることが、利用者にとって一番いいことだと思っています」（山本氏）

演習 I：福祉用具の安全確認トレーニング



堤 道成 氏

福祉用具のある介護場面の絵を見て、起き得るリスクを探す「福祉用具の安全確認トレーニング（AKT）」。訪問介護員と福祉用具専門相談員が交じったグループ構成で、課題シートのディスカッションを行った。

「同じ場面を見ても、気づく人、気づかない人がいます。どこに注意したらいいのか、『共通認識』を持ってください」とは、AKT の講師を担当した堤道成氏（有限会社サテライト代表取締役、AKT 開発者）。そんな堤氏がこのディスカッションに設けたルールは次の 2 つ。①他人の意見にブレーキをかけないこと、②自分の意見にブレーキをかけないこと。「そんなこと有り得ない」と他人の意見を遮ったり、「こんなこと言ったら格好悪いだろうか」と自分の意見を抑えたりしないようにとのことだ。

これは「気づき」のトレーニングだと堤氏は言う。「未来には何が起こるかわかりません。予測能力を磨くことが大切なのです。出た意見はすべて起こり得ることであり、すべて正解です。」（堤氏）



AKT の様子。「この場面に 20 個程の事故の実例が盛り込まれています。」（堤氏）

演習Ⅱ：福祉用具の事故予防を

視点とした事例検討



淵上 敬史 氏

安全確認トレーニングで肩を慣らした後は、具体的な事例をもとにしたグループワークだ。受講者は、個別サービス計画書やケアプランに記載された情報をもとに利用者像を頭に描き、選定された福祉用具や生活動作のどこに注意

しなければならないかを話し合った。講師を務めたのは、淵上敬史氏（株式会社ウィズ福祉技術情報支援室課長、作業療法士）。「訪問介護員／福祉用具専門相談員がどういう視点を持っているか、『気づき』を得てください」と声をかけた。

淵上氏は、連携による情報交換の必要性を主張する。「福祉用具専門相談員は『誰が使うのか』を把握できているか、また、訪問介護員は『何の目的で選定されたのか』、『どう使うのか』を把握できているか。せっかく良い福祉用具があるにもかかわらず、うまく使われないのは残念なこと。各自、事業所に帰ったときにもう一度考えてみてください。」（淵上氏）



普段からのコミュニケーションで

すれ違いの解消を

発表の中で、訪問介護員が福祉用具専門相談員への要望を伝える場面も。特に印象的だったのは、「訪問介護員が在宅介助しているところを見に来てほしい」というもの。実際の現場を見ることで、訪問介護員から引き継がれる内容の受け取り方も変わってくるだろう。これに対し福祉用具専門相談員は、「訪問介護員がご利用者に最も近いので、時間を合わせて話を聞きたいと常々思っていた。邪魔になるのではないかと気兼ねしていた」と話した。普段現場で顔を合わせる機会が少ない分、思いがすれ違っていたようだ。連携の仕組みづくりは今後も課題である。



グループワークの様子。他の職種と意見を交わすことで、新たな発見も。



~~~~~

5会場すべて終了したが、事故予防の仕組みづくりや多職種連携の環境整備等、課題解決はこれからである。本会では今後も研修会等を開催しながら、これらの課題解決に積極的に取り組んでいきたい考えである。

### 受講者インタビュー

- ・ご利用者が福祉用具専門相談員に見せる顔と訪問介護員に見せる顔では、違いがあることを発見。福祉用具専門相談員の視点は参考になりました。（訪問介護員）
- ・訪問介護員さんに、使い方の説明がきちんと伝わっていなかったんだな、ということに気がつきました。（福祉用具専門相談員）
- ・訪問介護員が一番ご利用者の身近にいて福祉用具も使います。どう連携していくかが今後の課題です。（福祉用具専門相談員）



修了証の授与

<訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修>

- ①神奈川会場／2011年11月14日（月）
- ②千葉会場／2011年11月25日（金）
- ③静岡会場／2011年12月20日（火）
- ④鹿児島会場／2012年1月21日（土）
- ⑤大阪会場／2012年1月24日（火）